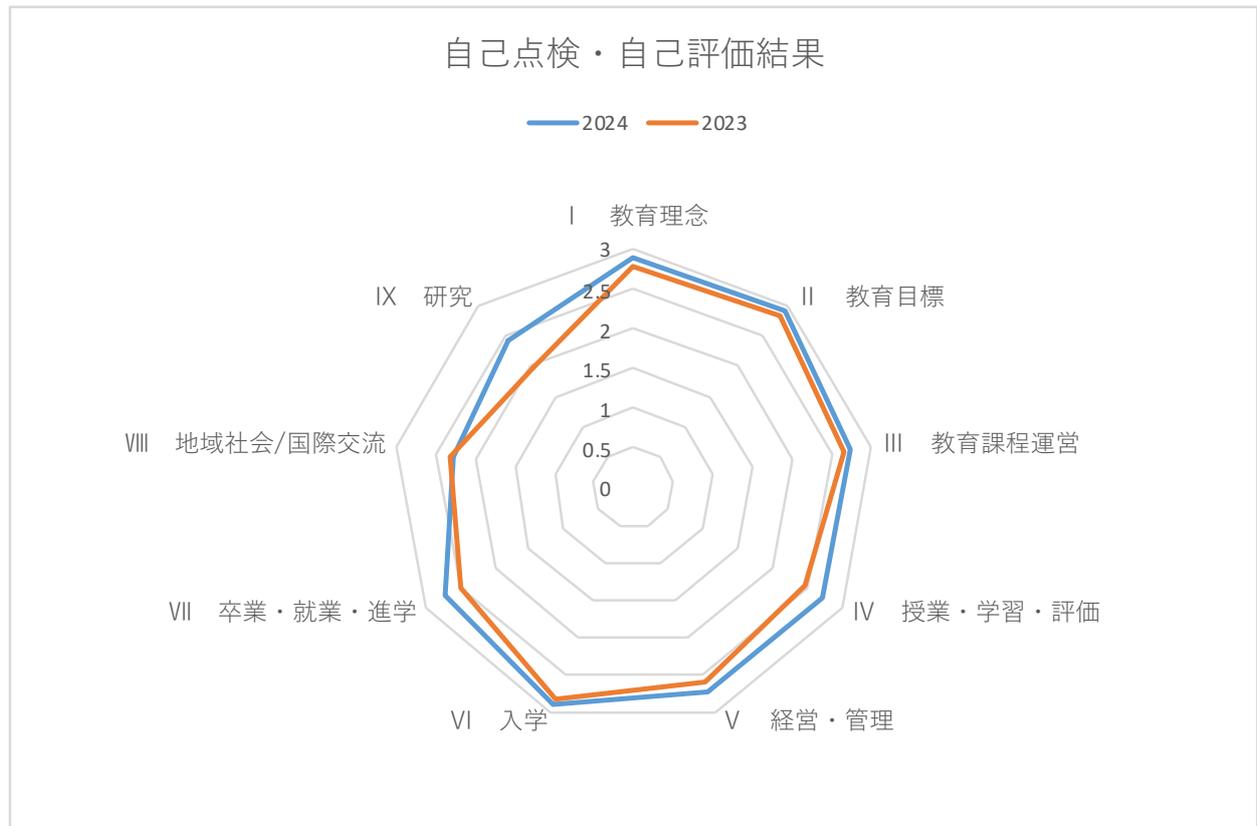


2024年度 自己点検・自己評価結果

評価は、「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」に基づき評価した。

- I～IXの категорияとその評価項目（121項目）を、
3段階評価（3：当てはまる、2：やや当てはまる、1：当てはまらない）とし評価した。
- 評価点は評価者が3段階で評価した平均値とした。

カテゴリー	評価点（ ）は2023年度
I 教育理念	2.89 (2.78)
II 教育目標	2.91 (2.83)
III 教育課程運営	2.74 (2.66)
IV 授業・学習・評価	2.73 (2.45)
V 経営・管理	2.72 (2.58)
VI 入学	2.89 (2.82)
VII 卒業・就業・進学	2.71 (2.49)
VIII 地域社会/国際交流	2.27 (2.32)
IX 研究	2.43 (1.95)



総括と課題および学校関係者評価

I 教育理念・教育目的（対前年度比+0.11ポイント）



<p>カリキュラムポリシーで教育内容、教育方法、教育環境、ディプロマポリシーで卒業時の要件を明確に示している。教育理念、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーは講師、実習施設へ講師会議で説明し周知を図った。今年度は1年生の4月にカリキュラムの説明を追加し、理念やディプロマポリシーと科目との関連の理解を図った。「LLL論」では、設置主体の理念と本校の理念との関連、本校の理念である「LLL」の説明と理念に基づいた活動を取り入れ、学生への学習の指針になっている。ディプロマポリシーの到達状況について「自分史」の時間を設け、全校生で中間・最終評価を行い、理念やディプロマポリシーに関連した活動が行えているか評価した。昨年度と比較し平均点が上がった背景には、新カリキュラムは学校の理念に基づいた学習であることを強調しており、教職員の理解が深まったためであると考えられる。</p>	
<p>課題</p>	
<p>教育理念・教育目的の理解のために、引き続き継続的かつ具体的に教職員会議で検討し、明文化して周知する。</p>	<p>今年度実施する就職先アンケートはカリキュラム改正後初の調査になるため、卒業時(入職時)にもつ資質を評価し、今後の教育方法に活かす。</p>
<p>学校関係者評価</p>	
<p>新カリキュラムが導入され3年目でもあり、教職員の理解が深まっている事が、学生への関りにも効果があったと思われる。</p>	

II 教育目標 (対前年度比+0.08ポイント)

<p>総括</p>	
<p>ディプロマポリシーは、教育理念と一貫しており、各学年の到達目標を設定し学生と教員で評価した。新カリで初の卒業生を輩出したため、ディプロマポリシーの到達状況の評価した結果、学生の自己評価では「看護を実践する力」が平均点77.4点で最も低い。これは実習でも手ごたえを感じる事ができる力であり、不足にも気が付くためであると考えた。最も平均点が高いのは「人間関係を築く力」である。これは本校の取り組みとしてグループワークが多く、学習面以外でのグループ内での意思表示や話を聞くこと、課題達成のために協力するなどの人間関係を構築する力の育成にもつながっている。全体的に評価のバランスが整ったのは、教員が評価を通しディプロマポリシーの理解が深まったことと、到達状況</p>	
<p>課題</p>	
<p>ディプロマポリシーの到達のための方策を検討し継続して取り組む。 新カリキュラムで初の卒業後の状況の評価できるため、卒業教育を含め、大原記念財団の看護部と継続教育について連携を図る</p>	
<p>学校関係者評価</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・2-1と5が大きく改善されている。これも新カリの卒業生を輩出したことで、ディプロマポリシーの理解が深まり関わったことが、数値に現れたのかと思う。 ・継続教育は生涯学習に包括されていますが、それも含めて自信のキャリアプランをイメージできるとよい。 	

III 教育課程運営 (対前年度比+0.08ポイント)

<p>総括</p>	
------------------	--

<p>【a1-1～c2-2】教職員は教育理念・ディプロマポリシーおよび科目との関連を理解しており、科目の設定理由、到達目標を根拠をもって編成している。また単位の修得やカリキュラムの構成は学生、教職員の双方が理解できるように明記している。単位の構成はカリキュラムポリシーである「看護の対象である人間の理解から看護へと発展した内容で学ぶ」ように、1年次に全領域の対象の理解、2年次に疾患・看護、3年次に実習で看護を展開するように積み重ねながら学習するように構成している。今年度はこのカリキュラムで初めての卒業生を輩出した。看護の対象である人間の理解から看護を考える思考が身につけており、本校の特徴であり、目指す教育の成果が得られたと評価している。</p> <p>【d1-1～d2】単位履修については学生便覧に明記しており、教員、学生ともに理解している。他の高等教育機関と単位互換の体制が整備されており、今年度は短大卒の入学生1名の単位認定を行った。</p> <p>【e1-1～e3-2】他の高等教育機関と単位互換の体制が整備されており、今年度は短大卒の入学生1名の単位認定を行った。本年度は新カリキュラムで3年経過したため、新たにカリキュラム評価を実施した。現在は体制の構築中である。</p> <p>【f1-1～f2-2】教員のスキルアップのため、研修の参加の体制は整っている。本年度の研修参加のべ人数は76件(対前年度比+38件)、短期学外研修2名、臨床研修1名、臨床指導者講習会講師派遣2名、看護教育研究会3名である。f1-2の評価点が下がった背景には、講義の工夫によりマンパワーが必要であり、実習指導と講義との調整を各々の判断に任されていることが考えられる。</p> <p>【g1-1～g4-2】臨地実習施設へは講師会議を3月に開催し教育理念、ディプロマポリシーの説明を行い周知している。主となる実習施設である大原総合病院では毎月臨床指導者との連絡会議を開催し、情報共有と指導方法の検討を行っている。7月と12月には合同臨床指導者連絡会を開催し、大原記念財団の施設の臨床指導者と教員で学生のヒヤリハット報告、指導方法を検討し指導につなげている。大原記念財団の総実習部署は17部署で指導者は78名である。看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインでは「学生が実習する看護単位には、実習指導者が2人以上配置されていることが望ましい」とされている中で条件を満たしているのは3部署である。実習での感染対策は大原記念財団の方針に準じており、毎日の体調確認とN95マスクの使用を継続している。必要時は感染管理室に相談し助言を得て実習している。</p>

課題

<p>e3-2 カリキュラム評価の要項を作成し、倫理規定を明確にする。</p> <p>f1-2 教員が授業準備の時間がとれない原因を明らかにして体制を検討する。教員、臨床指導者の育成に財団とともに取り組む。令和8年度は福島県で看護教員養成講習会が開催されることを“機会”とする。</p>

学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・ a1-1～e2までは昨年度より更に充実している。教職員の取り組みが効果を奏している。しかし、e3-1以降は昨年度と同様に課題が多い。講義の工夫のためのマンパワーは、事務職の方の活用も検討内容になるかもしれないと思った。時間調整は個人ではなく、組織的にも介入する必要がある。 ・ g1-1～g2-2に関して、実習指導者養成研修は年2回開催されているため、計画的に養成していく。また、看護教員養成に関しても、当県も近隣の県もここ数年実施しておらず、受講するに難しい環境にあった。今年度は県外で2名受講しており、次年度は福島県でも計画があるため期待する。

IV 授業・学習・評価過程 (対前年度比+0.28ポイント)

総括

<p>授業内容はデュプロマポリシーと科目の関連をカリキュラムマップで明確にし、カリキュラムポリシーで本校のカリキュラムの構成を明記した。また、看護学の教育内容として科目の設定理由を挙げ、妥当であると評価している。今年度はアクティブラーニングでの講義が増加した。昨年度の講師会議で講師に依頼した“考える”“イメージできる”指導として、事例の活用やモデル人形を活用して実際に近い状況をつくって看護を展開する方法を取り入れた。また外部講師と教員での演習や全教員での演習など、協力体制は整っている。看護師に講師を依頼しているため、4月に教員と看護師の講師で講義方法について考える会を開催し、効果的な指導を検討した。多面的に目標の達成状況を評価するために筆記試験、レポート、技術試験、OSCEなどの方法を取り入れている。看護技術と臨地実習はパフォーマンス評価で事前にルーブリックを配布し学習の指針となっている。各学年の最終ではOSCEで習得した思考と行動を評価した。また、1年間で学んだことをプレゼンテーションする機会を設定した。全体としてアウトプットする機会を多く取り入れて学生の学習の発展につながったと評価している。評価基準の検討は、特に臨地実習の評価基準は実習デザインの見直しとともに全教員で検討し点検した。また、外部講師や看護師の講師と、講義方法について検討会等を開き効果的な指導を検討され実施された事により、その成果が数値として出ていたと思う。</p>
--

課題

<p>評価計画の共通認識を継続する。</p>

学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師や看護師の講師と、講義方法について検討会等を開き効果的な指導を検討され実施された事により、その成果が数値として出ていたと思う。

V 経営・管理過程 (対前年度比+0.14ポイント)

総括

<p>【a1-1～a1-6】 学校長が設置者である財団の事業計画に基づき教職員会議で提示している。</p> <p>【b1-1～b2-2】 意思決定システムは各種会議規程、校務分掌により明確にしている。教職員の任用は設置者である財団側が理念や目的の整合性に照らし合わせて任用にあっている。</p> <p>【c1-1～c2-2】 学校長は設置者である財団の一施設として中期・長期・短期計画、年間計画に基づいて教職員会議で説明している。</p> <p>【d1-1～d3-2】 施設設備は適宜改善している。今年度は情報科学室のパソコンを買い替えた。また福島市内のNPO法人に隔週スイーツの販売を依頼し福利厚生につなげている。</p> <p>【e1-1～e1-3】 学生生活の支援として、奨学金制度、図書の実質、メディックメディアのカスタマーサクセス看護(看護師国家試験合格支援プログラム)での学習支援、スクールカウンセラーの配置を行っている。</p> <p>【f1-1～f2-2】 保護者への情報提供は、入学時・宣誓式後・2年次年度末に実施している。また、今年度はウェブポータルで学生生活の状況を計4回、Instagramは18回配信している。学校の広報はオープンキャンパスや進路ガイダンス、進路説明会、高校訪問の際に行っている。本年度の進路ガイダンスは19件(前年度比+9件)、参加者は107名(前年度比+57名)だった。</p> <p>【g1-1～g1-2】 学校は設置者である財団の一施設としての養成所として中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。</p>
課題
g1-1.g1-2 短期的、長期的計画を教職員に周知し、運営委員会に挙げられるよう構想を練る。
学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な工夫を凝らし実施しており、昨年度より全体的に評価が上がっている。学校は財団の1施設であり、今後の看護学校の将来構想や、地域医療への貢献につながるよう共に検討していきましょう。 ・人口減少の中、看護師の確保は当財団にとって重要な課題であり、学校の存在意義は大きい。一人の看護師を育てていく(生涯学習を含め)観点からもガバナンスの観点からももう少し情報共有できるとありがたい。

VI 入学 (対前年度比+0.07ポイント)

総括
アドミッションポリシーを明示している。試験委員会で入学者の分析をもとに選抜方法について検討し、社会人選抜制度を追加した。
課題
分析を継続し、入学制度を整備する。
学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・推薦枠の更なる拡充や高等学校への周知活動など、入学者増加への施策検討をお願いします。 ・運営委員会・試験委員会でも委員の意見を取り入れ、対応している。

VII 卒業・就業・進学 (対前年度比+0.22ポイント)

総括
卒業時にディプロマポリシーの自己評価を行い分析した。就職先に10月にアンケート調査を行い、就職後の状況を社会人基礎力で評価した。12月にホームカミングデーを実施し6名の卒業生が参加し近況報告を受け活動状況を把握した。
課題
ホームカミングディを強化し、活動状況の把握とともに在学中の活動の意見を聴取する。 卒業後の活動状況把握のため令和6年度卒業生の全就職先へアンケートを実施し、本校の教育に活用する。
学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・大原記念財団への就職に繋がるような施策を看護本部、人事課とタイアップし検討をお願いします。 ・就職後の評価を「社会人基礎力」で評価されており、看護部としても入学時の講話に組み入れているため、継続して実施し臨床場へのフィードバックを期待する。

VIII 地域社会／国際交流 (対前年度比-0.05ポイント)

総括

<p>【a1-1～a3-2】北信学習センターの秋の文化祭で学校のパンフレット配布とポスターを掲示し地域と連携する機会を得た。地域の要請を受け、学生消防隊員としての活動や学生自治会と協力し市域の清掃を実施した。新年祝賀会では学校のPRと交流を図った。学生へは随時ボランティアの情報提供を行っている。高校訪問はのべ26件行い、本校へのニーズの把握とPRを行った。進路ガイダンスは19件、参加者107名、オープンキャンパスは高校生70名、保護者28名の計108名(対前年度-10名)の参加があった。本校の教育を発信し、保護者への広報の機会にもなった。学校祭のバザーの収益金をパンダハウスに寄付し社会貢献につなげた。</p> <p>【b1～b4】国際交流は、JICAに依頼しモンゴルに在中する看護師とオンラインで活動を説明していただいたり、質問をす</p>
<p>課題</p>
<p>帰国学生、留学生の入試制度を検討する。 b4 海外での看護活動について、現在行っているJICAの講義の際に実際活動されている看護職の方から情報をいただけるよう調整する。</p>
<p>学校関係者評価</p>
<p>・「地域社会」は多くの情報をキャッチし、学生に伝え、実施されている。「国際交流」に関しては、評価は低いが、JICAへの依頼等工夫を凝らし、実施している。</p>

IX 研究 (対前年度比+0.48ポイント)

<p>総括</p>
<p>例年課題であった研究活動は、今年度は4名が研究に取り組んでいる。</p>
<p>課題</p>
<p>研究活動を継続できるように体制を整える。</p>
<p>学校関係者評価</p>
<p>・時間調整の厳しい中、4名が研究に取り組んだ事により、教職員相互の支援体制も培われたのではないかと思った。</p>